平成 29 年度第 1 回小学校ゼミナール記録

2017 年 6 月 2 日（金）

於：広島大学附属小学校

司会・発表者：西宗一郎，米山京香・石川雅章・五島秀明（広島大学教育学研究科院生）

参加者：影山和也（広島大学准教授），新田智子（広島大学附属小学校教諭）他 11 名

1. 協議内容

平成 29 年 3 月の文部科学省による新学習指導要領告示を受け，「資質・能力」を公的・教科的に整理した。その上で，新たなカリキュラムは「資質・能力」ベースのものになっているのかという視点から分析をし，批判的な考察を行った。

2. 資質・能力とカリキュラムについて

協議会の前半では「資質・能力」とカリキュラム構成について発表が行われた。国立教育政策研究所（2016）の「資質・能力は，対象が変わっても機能することが望ましい心の働き」であるという記述から，「資質・能力」は内容知よりも方法知に近いものであると考えられること，新学習指導要領（2017）から「資質・能力」の育成には教科等横断的な視点に立つことが求められること，数学的活動の定義が改められたことの 3 点が主に考察された。

また，新学習指導要領のカリキュラムを，中原（2008）のカリキュラムの構成原理を参考に規定した。これらの発表に対して教科等横断的な視点をどう捉えればよいかという問題提起がなされた。学生から，複数の教科で関連のある内容を教師同士が打ち合わせることや「資質・能力」の 3 つの柱から求められることを学校全体で取り組むことなどという意見が出された。それに対して教諭から，全てが横断的なわけではなく合科でもないので，それぞれの教科を特徴づけるものは何かを整理しそれを尊重することが必要なのではないかという言葉が返された。

3. 新学習指導要領の構成と求められる資質・能力の視点からの考察

協議会の後半では，小・中学校の現行・新学習指導要領の比較と考察が行われた。小学校は全体として「思考力・判断力・表現力等」の記述が増えているが，「学びに向かう力」の記述はなされておらず，中学校に関してはほぼ現状維持であることから，両者とも「資質・能力」の具体化がされていないのではないかという意見が挙げられた。しかし一方で，統計分野のカリキュラムについては大幅な変更がなされており，「批判的に事象を考察する」ことが求められている。このことはメタ認知の育成に関わると考えられ，「資質・能力」の育成において重要な役割を有していると述べられた。また，全体を通して「資質・能力」を生かすカリキュラムと見たときに，知識及び技能について読み取れるものは何かという議題が挙がった。これについて，知識と技能が一つになることには内容とそれを使うことの両方の重要性が意識されていて，今後は内容知ではなく方法知を重要視するというメッセージが込められていると意見があがった。そして，算数的活動・数学的活動の文言の定義が変わったことは「資質・能力」方面での変化があるという意見が述べられた。

（文責：米山　京香・松本　成葉・和田　陸）